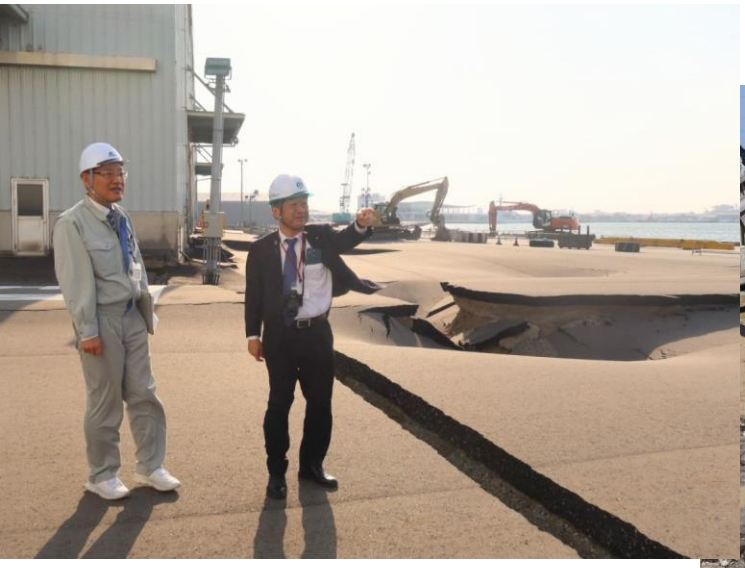
能登半島地震被災地調査

No.3

石川県内灘町及びかほく市



令和6年3月15日

参議院議員　足立敏之

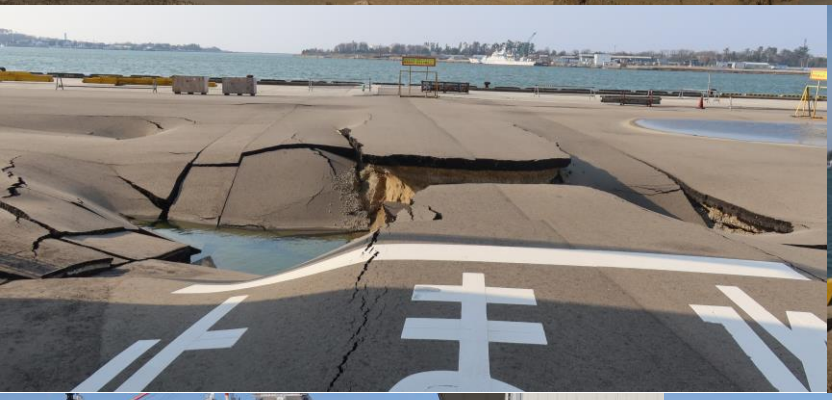
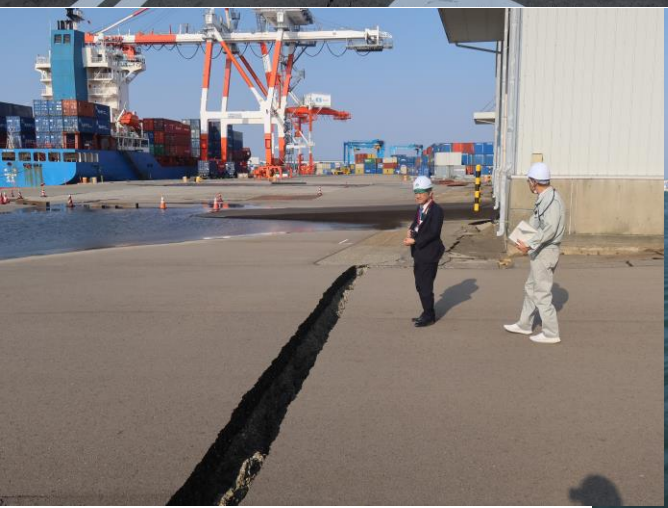
能登半島地震が発生して２ヶ月が経ちましたがこれまで1月31日に能登半島南部、2月26・27日に能登半島北部に伺いましたが今回、加賀北部の内灘町、かほく市に伺い被災状況を調査しました。
本報告は、その概要をとりまとめたものです。

内灘町、かほく市 液状化被災地調査

3月15日（金）に、能登半島地震で液状化等により被災した石川県の内灘町、かほく市に伺い被災状況を調査しました。1月31日、2月25～27日の被災地調査に続くものです。
小松空港に、石川県建設業協会の地中常務理事と西出参与にお迎えいただき、石川県内灘町の「道の駅 内灘サンセットパーク」で石川県建設業協会の平櫻会長、河北郡市土建協同組合の表代表理事、福居専務理事、岩本事務局長、内灘町建設業協会の狭間会長と合流し、被災状況のご説明をいただきました。
その後、河北潟干拓地を囲う堤防（総延長19km）が2m以上沈下した地点に伺いました。地震の揺れで基礎地盤が流動化して堤防が大きく沈下しているようで、応急復旧は行われていましたが、早期の本格復旧が必要と考えられました。

続いて、内灘町西荒屋地区からかほく市大崎地区にかけて砂丘と河北潟に挟まれた県道沿いを調査しました。

地震による液状化で、地盤が流動化しており、住宅や建物、神社等が地面にめり込んだり、傾いて被災しており、道路は波打ち電柱が倒れかかっている厳しい状況でした。広範囲に液状化している中で、今後どのようにこの地域の復旧復興を図るのか、難しい判断が求められると思います。

金沢港 液状化被災地調査

続いて、金沢港に伺い、石川県金沢港湾事務所の中出所長より戸水埠頭等の損傷状況についてご説明をいただきました。
耐震強化岸壁は何とか被害を免れ、ガントリークレーンは稼働していましたが、その他の岸壁は傾き、物揚げ場は液状化により沈下したり、大きな亀裂が入ったりして使用できない状態となっており、物流等への影響が懸念される状況でした。こうした大規模地震の発生を考えると、港湾の岸壁の耐震強化の重要性を改めて感じました。